

■ ようやく2学期がスタート

当初は8月26日(木)に2学期始業式が行われるはずでしたが、いわき市が8月8日(日)から8月31日(火)まで「まん延防止等重点措置」の適用対象区域になったことから、9月1日(水)に変更になり、さらに本日、9月13日(月)に始業式が変更されました。9月1日(水)からはオンデマンド授業となりましたが、しっかりと取り組みましたか？



夏休み中に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、「(新型コロナウイルス感染拡大防止のため)家で観戦するように!」ということが盛んに呼びかけられました。いわき市も夏休み中に感染者が急増し、なかなか厳しい状況の中で過ごさなければならぬ日々だったことでしょう。そんな中でも、特に3年生は進路活動のために夏休み中も連日登校し、学習に励んだり、提出書類の準備を進めたりしていた人が多くいました。筆者も進学・就職を問わず、対応させていただきましたが、積極的な姿勢で進めていた人については、あまり心配しなくても良いのではないかと感じました。

上にも記した通り、8月の下旬からいわき市でも新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあり、8月8日(日)から8月31日(火)まで「まん延防止等重点措置」の適用対象区域に指定されたことで、なかなか学校に来るのが難しかった諸君もいたことと思われます。今後、志望校や志望企業の試験に向けて、少しでもしっかりと準備できるよう、がんばっていきましょう。

2学期は気候も良いですから、コロナ対策をしっかりと取りながら、学習にスポーツに、読書や文化的な活動に・・・と、それぞれ目標を立てて充実した生活をしていけるようにしていってほしいものです。

■ 就職戦線スタート

夏休み中に、企業への就職を希望している多くの3年生諸君が職場見学に行ってきました。受験する企業を決定するうえで十分参考になりましたか？ 基本的に就職希望者の採用試験は9月16日(木)が解禁日となり、多くの企業が9月16日(木)近辺で試験を実施するものと思われます。夏休み中に学校に来ていた諸君には必要書類について指導してきましたが、まったく来ていなかった諸君は分からないことも多いことと思います。提出しなければならない書類は、①学校からの挨拶文(進路指導担当で準備)、②履歴書(指定の用紙に各自で記入)、③調査書(学校側で準備)の3点です。学校で準備する封筒に入れて送付します。簡易書留の速達で送るように指導しており、730円かかります。



以下に、今後の大まかな流れを記します。時間があまりありませんが、面接練習をきちんとしていない生徒は、できるだけ多くの先生と練習してもらうようにしましょう。質問項目は『進路活動のてびき』を参照しながら、ノートに回答内容を準備するよう進路ガイダンスで伝えていますので、各自で進めていたことと思います。担任の先生や進路指導担当に確認してもらいましょう。

提出書類については、ほとんどの生徒が9月上旬までに志望企業に送付しています。9月16日（木）の解禁日に試験という企業が多いこととされますので、本日（9月13日）中に試験日、試験内容の回答を渡せる人が多いのではないかと予想しています。よく確認して採用試験に臨みましょう。

採用試験において、もし不採用だった場合には、求人票で新たな企業を探してチャレンジしましょう。ただし、回を追うごとに人気の企業は少なくなっていくので、1回目で採用されるように入念に準備してほしいものです。

採用試験の結果が届いたら、採用・不採用を問わず、お礼状を出すように指導していますので、速やかに出すようにしましょう。結果はどちらであるにせよ心を込めて書くことが大切です。

本人には伝えてありますが、夏休み中に職場見学でお世話になった企業の中には、「素晴らしい生徒さんでしたので、ぜひ当社の受験をお勧めください」とわざわざ電話をくださったところもありました。本校生は、どちらかというところ採用試験において面接での評価は高い傾向にあります。しかし、基礎学力が一定水準に達しなくて不採用になるケースが例年見られます。就職希望者には国語や数学、一般常識等のプリントを配付していますので、きちんと取り組んで基礎学力をしっかりと身につけたうえで、自信を持って採用試験に臨んでほしいと思います。

■ 日本学生支援機構・奨学金の申込み状況

日本学生支援機構奨学金の予約申込みにつきまして、学校で提出すべき書類は、すべて7月中に発送いたしました。特に夏休み中に問合せはございませんでしたが、マイナンバーにつきまして、万が一不備があった場合には、日本学生支援機構から各ご家庭に直接連絡が行ったか、もしくはこれから連絡が行くものと思われます。日本学生支援機構からそのような連絡があった場合には、速やかに対応いただきますようお願いいたします。マイナンバー関係の書類提出が遅くなりますと、審査に時間がかかり、当初お伝えしていた期間までに回答を得られないケースも出てくるものと思われます。なお、これまでも繰り返しお伝えしておりますが、マイナンバー関係につきましては学校では対応することはできませんので、『申込みのてびき』裏面に記載のマイナンバー提出専用コールセンターにお問合せいただきますよう、お願いいたします。



■ 指定校推薦について



3年生のみなさんには担任の先生からすでに連絡が行っているかと思いますが、8月31日（火）に今年度の「(大学入試における) 指定校推薦」についての会議が行われました。

例えば、同じ大学の学部・学科の1枠に対して、複数の希望者がいた場合には、成績、部活動実績、生徒会活動実績、委員会活動実績などで優劣が判断され、受験者が決定します。残念ながら、指定校の枠から漏れてしまった諸君は、他の大学や別の受験方法で志望校にチャレンジしていくことになります。

1・2年生のみなさんも、「大学受験や進路はまだ先のこと」と考えず、普段の授業を大切に、しっかり学習して定期考査に臨むとか、部活動に限界までチャレンジして試合で好結果を生むよう努力するとか、少しでも学校が良くなるように、生徒みんなが過ごしやすくなるように生徒会活動や委員会活動がんばるとか、それぞれ目標を見つけてより充実した学校生活を送るようにしてほしいと思います。

■ 入試の出願に向けての注意事項



9月に入り、大学、短大、専門学校を問わず、総合型入試が実施される時期かと思います。コロナ禍で夏休み中に通常形でオープンキャンパスが開催されず、開催されたとしても、リモートでの開催等で、学校の様子や雰囲気あまり分らなかったという生徒諸君も多いかと思います。そのような中で、志望校を決定しなければならないのは、ある意味で不本意かもしれませんが、パンフレットやホームページなどもよく参考にして、決定させてほしいと思います。

総合型入試では、小論文などを課されるケースが多くありますので、国語の先生などにアドバイスをもらいながら、しっかり準備を進めるようにしましょう。指定校推薦などにおいても、昨年度辺りから、「一定程度の学力を見る」とのことで、やはり小論文など、何らかの「学力試験」を課されるようになりました。各大学や短大で提示している評定平均値や欠席日数をクリアしていれば大丈夫とは言い切れませんので、要注意です。

加えて、このコロナ禍が続く中で、「受験の型」を問わず、入試の内容が大幅に変更になることもあるようです。すでに文書が送られてきている大学もありますし、ホームページで告知している大学もあるかと思います。自分の志望校の試験内容、方法について変更点はないかよく確認してください。

なお、総合型入試はすでに出願を終えている諸君が多いと思われそうですが、指定校推薦については、専用の要項・願書があります。9月中旬に届くところが多いかと思われそうです。指定校推薦希望者は、進路指導室に足を運び、要項を取りに来てください（※WEB出願のケースも増えていますので、よく確認の必要があります）。

■東京オリンピックの話題から



白血病を克服して東京オリンピックに出場した水泳の池江璃花子選手は、4月の代表選考を兼ねた競泳の日本選手権、女子バタフライ100Mで見事に復活優勝を果たしました。直後のインタビューで、「優勝はもっと先のことだと思っていた。『ただいま』という気持ちでこのレースに入場してきた。自分がすごくつらくてしんどくても、努力は必ず報われると思った」と話していました。ご本人の言葉にあったように、つらい闘病生活を乗り越え、さらに筋力等も含めて、なかなか元の状態に戻すのが大変な中で、見事に復活優勝を遂げた姿に筆者も深い感動を覚えました。

白血病というと、筆者は大学時代、ゼミの研修でマレーシアを訪ねた際に出会った10歳の男の子のことを思い出します。この男の子は、ある日系企業が現地の村に不法投棄していた放射性物質が原因で白血病にかかったとみられています。当初、それまで元気だったこの男の子が、なぜ白血病にかかったのか原因が不明だったとのことでした。ところが、現地で立ち上げられた「反放射性物質委員会」により、上記の放射性物質の不法投棄がその日系企業によるものであったことが突き止められ、さらに、「生活用水に不法投棄された放射性物質が混じり込んだことで、何らかの形で10歳の男の子の体内に入り込み、急に白血病にかかった」と結論づけたとのことでした。筆者らもその男の子の家を訪ねて、母親から直接どのような状況下で男の子の体調が悪化していったか話を聞きました。いろいろ説明を受けた後、その母親は、「この子は医者から余命1年と宣告されている」と話していました。1つ年下の弟と比べて、白血病にかかった兄は体も細く、弱々しい印象を受けました。そのゼミの研修から2年ほど過ぎたころだったでしょうか。マレーシアに同行した大学のゼミ担当教授から「あの10歳の男の子が亡くなったらしい」との報告を受けて、たまらない気持ちになったことを四半世紀以上過ぎた今でも鮮明に思い出します。

東京オリンピックで池江選手は、女子400Mリレー、混合400Mメドレーリレー、女子400Mメドレーリレーの3種目に出場しました。女子400Mリレーと混合400Mメドレーリレーの2種目は予選で敗退したものの、女子400Mメドレーリレーは決勝に残りました。すべての競技が終了した後、「1度は諦めかけた東京オリンピックだったが、決勝で泳ぐことができてすごく幸せだった」というコメントを残しています。1年前には想像もできなかった東京オリンピックの舞台。池江選手は、大会後さらに前向きなコメントも残し、3年後のパリ大会を見据えているようでした。今後のさらなる活躍に期待したいと思います。

東京オリンピックの開催については賛否両論がありましたが、筆者が関わっている卓球競技については、今大会から採用された混合ダブルスで水谷隼・伊藤美誠のペアが金メダルを獲得し、日本卓球界の悲願達成にうれしさがこみ上げました。今大会では他の競技でも日本勢の活躍が目立ち、史上最多となる金メダルを獲得しましたが、そんな中であって、筆者は特にバドミントンの女子ダブルスに出場した福島由紀・廣田彩花のペアが敗れた試合が印象に残りました。世界ランク1位のペアとしての出場でしたが、廣田選手が6月に右膝前十字じん帯を負傷し、今大会に出場できたこと自体が奇跡だったとのことでした。廣田選手の右脚に巻かれていたサポーターが痛々しかったのですが、そういった中でも果敢に動いて羽根を拾いまくっていた姿が印象的でした。準々決勝で中国ペアに敗れましたが、福島選手、廣田選手がいくら厳しいコースに返球しても相手は打ち返してきて、中には80球以上続いたラリーもあり、苦しい戦いだったと思います。死力を尽くして戦っていた2人の姿に胸を打たれました。試合後、相手の中国ペアが廣田選手の脚を気遣っていたことも心に残りました。

コロナ禍の状況は厳しさを増していますが、東京オリンピックではさまざまな競技を目の当たりにして、みなさんも多くの感動を得たことと思います。さて、8月末に行われた東京パラリンピック柔道競技で、視覚障害者女子48kg級に出場した本校卒業生の半谷静香さんは、前回のリオデジャネイロパラリンピックに続いて5位入賞を果たしました。みなさんの先輩で、このような素晴らしい活躍をされている方がいることに誇りを持ってほしいと思います。スポーツの素晴らしさを実感した夏が終わりましたね。

文責：清水聖（進路指導主事）